

広
報
T E N S H I - H O S P I T A L

天使びょういん

秋号
2023
OCT
vol.70



タイトル：四十雀 撮影：西里仁男



INDEX

p2-3 天使こどもメディカルセンター vol.3

p4 Inside hospital「麻醉科」

p5 レシピ「スポーツの秋、ロコモ予防で
しっかり身体を守りましょう！」

p6-7 エッセイ「わたしの○○」(第15回)

p8 お知らせ

天使こどもメディカルセンター

新生児期から移行期まで専門的な医療とサポートを提供します

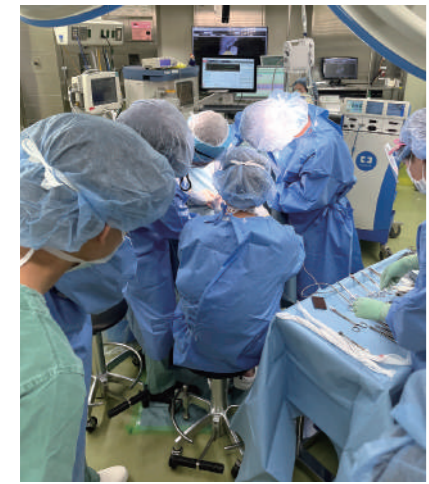
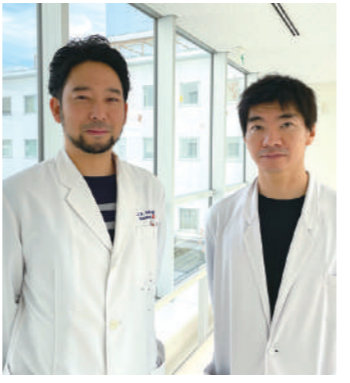


小児外科

小児科はこどもの“内科”であるのに対し、こどもの“外科”が小児外科です。脳、心臓、骨を除くこどもの外科的な病気を診るのが小児外科の役割です。

患者さんに負担の少ない手術を

当院の小児外科は2003年2月に開設し、毎年約300件の手術を行っています。これは道内でも屈指の手術数です。常に、小児独特の状態や成長・発達を含めた将来像を考えながら、小児科やNICUなど各科と連携して治療しています。ただ「治す」だけでなく、「きれいに治す」ことにこだわるとともに、患者さんの負担を少しでも軽減できるように、日帰り手術や腹腔鏡による手術を積極的に取り入れています。



●手術件数

	2022年度	2021年度	2020年度
総手術件数	294	286	327
日帰り手術	200	196	187

●件数の多い手術（上位10症例）

鼠径ヘルニア手術（腹腔鏡下）	144	143	146
臍ヘルニア手術	99	100	86
虫垂切除術（腹腔鏡下）	16	14	13
リンパ節摘出術（直径3cm未満）	2	4	9
鎖肛手術（肛門膜状閉鎖石灰）	9	0	6
胃瘻造設術	5	8	2
幽門形成術	6	3	5
停留精巣固定術	6	5	3
小腸切除術	4	6	2
先天性食道閉鎖症根治手術	6	2	2

院内外との密な連携

小児外科では、こどもメディカルセンターができる前から、小児科や産科、NICUとの連携は密接で、母体搬送や新生児、小児の患者さんを全道から受け入れています。遠方の場合は丘珠空港を利用してヘリコプターで搬送してこられることもあります。

鼠径ヘルニア・臍ヘルニアセンター

手術の中でも鼠径ヘルニア、臍ヘルニアの症例は多く、より専門的な治療を行うため、2014年10月に鼠径ヘルニア・臍ヘルニアセンターを開設しました。

センターでは、小児に限らず、成人の患者さんにも対応しており、美容上の、臍の形が気になって来院される方も少なくありません。外来は毎日（月～金）行っておりますので、気になることがあれば、お気軽にご相談ください。



鼠径ヘルニア・臍ヘルニアセンターに関する詳しい情報はこちらをご覧ください。

保健センターではお子さんの健やかな成長のために乳幼児健診を行っています。その後の精密健康診査では、小児科、小児外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科など、天使病院さんにはとてもお世話になっています。

東保健センター
保健担当部長
藤川 知子氏

保健センターの風景

整形外科

専門は成人の関節疾患、四肢外傷、骨粗しょう症などですが、こどもにも対応しています。中でも多いのは、「発育性股関節形成不全」です。

発育性股関節形成不全とは

乳児期に股関節（脚の付け根の関節）が怪我ではなく脱臼してしまう病気です。以前は「先天性股関節脱臼」と言われていましたが、脱臼は生まれた時すでに存在する病態ではなく、生後何日から何週間か経ってから脱臼に発展するケースが多いことから現在の病名に変わりました。その発生は1000人に1～3人と希ではありますが、赤ちゃんの抱き方やおむつの当て方が悪かったり、様々な要因から発生します。

診断と治療

診断には触診およびエコー検査を用います。生後4ヶ月以降はレントゲン検査を行います。治療は、脱臼を整復するためにバンド（リーメンビューゲル）を両下肢に装着します。多くの場合数週間で脱臼整復に成功しますが、成功しなかった場合には入院での治療が必要になりますので、その場合北海道大学整形外科に治療を依頼することになります。

来院のきっかけ

市中の小児科医院や4ヶ月健診で脱臼が疑われた場合（一次検診）、二次健診として当院の整形外科に紹介来院される方が多いです。股関節専門外来は第4金曜日の午後に行っていますが、一般外来で診ることも可能です。

診療を支える部門 放射線科

当院では、立位保持のできない0歳でも、立位状態での撮影が必要な場合があります。その撮影（検査）に、使用するのが小児立位用の撮影台です（下写真左）。

この撮影台を使用する際は、2人の技師で前後から支え、安全に配慮しながら撮影を行うのが基本です。付き添いの方には、撮影室の外から撮影の様子を見ていただくので、放射線の影響もなく安心してお子さんを見守っていただけます。当院の技師は小児の撮影経験が豊富ですので画像の質は高く、再撮影になることも少ないようです。また、小児に限らず、一般撮影やCTのX線被ばく低減にも、日々取り組んでいます。小さなお子さんの検査には不安もあると思いますが、技師一同、常に安全に検査を受けていただけるように気を配っていますので、どうぞご安心ください。



NICUで借りてきた“この子”で撮影風景を再現します。



乳幼児専用の撮影台です。キャラクターでデコレーションしてやわらかい雰囲気。



必ず2名以上で撮影します。



はい、動かないでね～。



2023年4月から、天使病院の麻酔科に赴任しました。その前は、札幌北楡病院で、手術麻酔と緩和ケア病棟に携わっていました。天使病院は私が出産し、息子が入院した、大変お世話になった病院です。この縁のある病院で働くことになったことを、うれしく思っています。よろしくお願いします。

麻酔科について

天使病院は、0歳から100歳を超える幅広い年齢層の手術麻酔を行っています。小児麻酔の割合がとても高いことが特徴です。私が今までに赴任した病院の中では、断トツです。先天性消化管疾患の新生児の手術、鼠径ヘルニア・臍ヘルニアの日帰り手術、アデノイド・扁桃摘出術、眼科手術と多岐にわたります。

未来で輝いている子供たちが、元気になるようにお手伝いすることを、光栄に思います。子供たちや親御さんが少しでも不安が少なく、安全に周術期をおえるように努めています。

以前は、24時間対応の硬膜外麻酔併用和痛分娩を行っていました。出産の疲労を軽減し、産後の回復を早めます。私の出産時も行いました。今は、麻酔科医不足で休止中ですが、再開できることを願っています。

また、ペインクリニック外来や高圧酸素療法なども行っています。

プロフィール

■経歴: 2005年岩手医科大学医学部卒業。北海道大学病院にて初期臨床研修。北海道大学病院、砂川市立病院、札幌厚生病院、札幌市立病院、札幌北楡病院などを経て、2023年4月より天使病院。同7月より麻酔科科長。

■資格: 日本麻酔科学会 麻酔科認定 / 日本麻酔科学会 麻酔科専門医

■専門分野について

多くの病院で主に手術麻酔に従事してきました。大学病院では、小児から成人の心臓まひや肝臓・脾臓・腎臓の移植麻酔など様々な麻酔を経験しました。砂川市立病院では、救急やICU管理もしてきました。札幌北楡病院では、血液疾患や透析患者の麻酔を多く経験しました。また、3年間、緩和ケア病棟で、消化器癌・肺癌・血液疾患などの方々の最期のお看取りをしました。苦痛なく、良い時間を過ごせるように尽力しました。天使病院では、緩和ケアチームカンファレンスに参加しています。

麻酔科医は、手術という大きな侵襲から、患者さんを守っています。特に、疼痛コントロールが重要と考えており、できるだけ術後に痛くないように心がけています。多くの患者さんが心配するところだと思います。

■趣味・特技

旅行が大好きで、就職してからは、年に1回の海外旅行を楽しみにしています。歴史的建造物を見たり、リゾートではぼーっとしたり、非日常を過ごすことがストレス発散になります。

コロナ禍になってからは、国内旅行にシフトしました。庭園めぐりや博物館で金ぴかのお宝を見ると癒されます。

また、数年前より中国ドラマの沼にはまっています。趣味が全く合わない息子とは、昨年頃から一緒にスキーを楽しんでいます。

■山吹先生ってこんな人♪ (手術室スタッフより)

山吹先生は「できる先生!」「クールビューティー!」という印象です。

手術を受けられる患者さんの安全を守るため、麻酔管理を冷静・迅速に行っており、麻酔導入前には患者さんの言葉を聞き、安心できるような声かけをされています。

また、プライベートでは息子さんのことを楽しくお話しされ、母親としての優しい一面をみることができます。優しさやクールさを併せ持つ、とても素敵な先生です。



スポーツの秋、ロコモ予防でしっかり身体を守りましょう!

最近ではメタボ予防と同じ位、ロコモ予防の必要性をよく耳にするようになり、適度な運動と適切な食事が大切と言われています。ロコモとは、骨・関節・筋肉・神経などの運動器に障害が起こり、立つ、歩く、座るといった移動機能が低下した状態を指し、身体を思うように動かせなくなり日常生活に支障が生じ要介護になる原因とも言われています。ロコモにつながる食事の特徴は、食事を独りで摂ることが多く、三度の食事を作るのが億劫で食事を抜いてしまう事や、脂・コレステロールを避け、野菜中心になりがちになり、食事量の不足、偏った栄養バランスによって筋肉、骨が衰えるなどが考えられています。主食、主菜、副菜を揃えて3~4品用意するとバランスが取れていきます。食欲がないときは「おかず」を優先に食べる、よく食べる料理に1品蛋白質をプラス(+ツナ缶、+ほうれん草、+しらす干し...)などの食べ方の工夫も取り入れてみましょう。そして筋肉と骨の素となる栄養素を積極的に摂るよう心がけましょう。

~ロコモ予防の食生活のPoint~

- ・筋肉の素である良質な蛋白質を「鶏のササミ、赤身の肉、魚」から摂りましょう
- ・カルシウムの吸収を促進するビタミンDを椎茸やしめじなどのきのこ類から摂るようにしましょう
- ・3回食事を摂るように心がけ、共食の機会を増やし、楽しく食べましょう

管理栄養士 梅津千恵子

ささ身豆腐ナゲット



【材料2人分】

- ・ささ身 150g
- ・マヨネーズ 大さじ1
- ・絹ごし豆腐 50g
- ・塩・コショウ 少々
- ・小麦粉 大さじ2
- ・オリーブ油 大さじ1

【作り方】

- ① ささ身は筋を取り、包丁で粗めに叩き、軽く粘り気が出たらボウルに入れる。
- ② ①に水切りした絹ごし豆腐、小麦粉、マヨネーズ、塩・コショウを加えしっかり粘り気を出すまで混ぜ合わせる。
- ③ フライパンにオリーブ油を熱し、②をスプーンで落とし入れ、両面中火で焼き上げる。

ささ身の磯部巻き



【材料2人分】

- ・ささ身 200g
- ・片栗粉 大さじ1
- ・甘酒 大さじ1
- ・焼きのり 2枚
- ・しょうゆ 大さじ1/2
- ・オリーブ油 適宜

【作り方】

- ① ささ身は筋を取り、1口大にそぎ切りにし、甘酒としょうゆに30分漬ける。焼きのりは、ささ身の大きさに合わせて切っておく。
- ② ①に片栗粉を加え、焼きのりを巻き、フライパンにオリーブ油を熱し、巻き終わりを下にして先に焼き、両面焼き上げる。

第15回 「僕の愛した絵本パートIV」

耳鼻咽喉科 主任科長 及川 敬太



皆様こんにちは！本誌上で僕の大好きな絵本を紹介させていただく機会もついに4回目となりました。ありがとうございます。

ただ、4回目ともなるとマンネリ化してきたと読者の皆様は感じられると思います。そこで今回は個性が強すぎて読者の皆さまをやや不安にさせるのではないかと懸念から、これまでで紹介するのを躊躇してきた絵本を中心にご紹介したいと思います。

一方で、古くから語り継がれる絵本も紹介したい、という気持ちも捨てきれません。しかし絶版の絵本を紹介するのは避けたい…そこで再度調べてみたら、復刻版「新・講談社の絵本シリーズ」の一部が電子書籍(Kindle版)で入手可能になっていました。僕は紙の本が好きで、基本的に電子書籍は嫌いです。ただ僕の絵本のエッセイもこれが最後だと思うので、最後は伝統的な絵本で締めくくりたいと思います。

・「でんせつのきょだいあんまんをはこべ」(図1)

筋肉ムキムキのアリが主人公です。その名も「アリアマ・アリロウ」。彼はある日突然落ちてきた巨大あんまんを巣まで運ぶことを目的としたプロジェクトリーダーに任命され、アリの巣一番の知恵者である「アリレオ・アレイ」の知恵を借りて、多くの犠牲を払い、多大な時間をかけて、巨大あんまんを巣まで運びます。そしてついにアリの女王の前で巨大あんまんカットの儀式が盛大に行われました。すると…。面白いです。絵も迫力があって良いです。僕は好きです。

・「よしおくんがぎゅうにゅうをこぼしてしまったおはなし」(図2)

紹介すべきかどうかずっと悩み続けてきた、超ナンセンス絵本です。これが面白いと感じるか、わけがわからないと感じるか、あなた次第です、という感じです。よしおくんが朝食の牛乳をこぼすと…「牛乳が止まらない!」。どんどん牛乳は流れ続け、よしおくんはお家の外へ流されてしまい、よしおくんはクロールで牛乳を泳いでいると「牛乳をこぼすな!」という看板にぶつかり、すると船がやってきますが、船乗りのおじさんは釣りをしています…。ほら、なんだかわからないでしょ? SFとも寓話とも安部公房的な世界とも解釈できますが、何とも不思議な魅力のある絵本なのです。

・「ぼくのおふる」(図3)

色々なお風呂を想像したあとで、お兄ちゃんと二人で空飛ぶお風呂に乗って月夜に乗り出します。するとおじもじゃ頭のサングラスにお風呂の栓を盗まれたので、お風呂に乗って取り返しに彼を追いかけます。ついに宇宙ステーションのお風呂まで行って、おじもじゃ頭のサングラスからお風呂の栓を取り返します。空想力をかきたてる、スケールの大きな、三日月の月夜がきれいな素敵な絵本です。僕は好きです。

・「ぼくのふとん」(図4)

色々な布団を想像して、押し入れからどんどん布団を出しているうちに、ヒツジに布団の綿を取られて、取り返すべくヒツジを追いかけて、色々な布団のある世界に行きます。スケールが大きく、絵探しができるので、読み聞かせにぴったりで、満月の月夜がきれいな絵です。ぜひ2作とも読んでみてくださいね。なお、「ぼくの」シリーズは不安になりませんので、安心してください!

・「みんなのこびと」(図5)

ある時期、キモかわゆい「コビト」シリーズが流行りましたが、その代表作となる絵本です。膝に犬を抱いたお茶の水博士のようなおじさんがパイプをくゆらせながら、子どもたちからの「コビト」発見のお手紙を紹介しつづけます。シズカちゃん(7歳)はゴキブリホイホイにひっかかった「シノビイエコビト」を発見しました。タケシくん(9歳)は「オオヒレカワコビト」を釣り上げます。さらには……。

ちなみに今もぼくの自宅にはコビトが二匹住んでいます(図6)。

・「金太郎」(図7)

足柄山の山奥に金太郎という子供が住んでいます。森へ行っては重いマサカリを振り回し、大きな木を切って遊んでいました…。で始まる言わずと知れた金太郎です。昭和10年代に講談社絵本として出版されたものの復刻版です。今なら、子供に重いマサカリのような大型の刃物を持たせるのは危険だ、とか、森の木を手当たり次第面白がって切り倒すのは環境破壊だ、とか色々批判されそうな金太郎です。さらに熊や鹿と相撲を取るのも動物虐待でしょうか。とはいえそんな金太郎は動物たちと仲の良いお友達であり、かわいいお尻を丸出し状態で正座をしてお母さんから読み書きを習う場面は読み聞かせの子どもたちにとっても受けやすい…とにかく天真爛漫で痛快です。ついに源頼光の家来となって鈴鹿峠に住む鬼を退治して手柄を立てて、坂田金時というお侍になって足柄山に凱旋します。僕が読んだ金太郎の中では最も傑作だと思います。

最後に

たくさんの絵本を読んだ中から僕が本当に面白く感じた作品だけを厳選して、これまで4年間にわたり、年に1回ご紹介させていただきました。皆さんの絵本選びの一助になれば幸いです。

一回の機会がもしありましたら、「僕の愛した童話」シリーズを考えています。新美南吉や坪田譲治、宮沢賢治などが好きですが…さすがにちょっと古いですかね?

図1



「でんせつのきょだいあんまんをはこべ」
サトシン作、よしながこうたく絵(講談社)
2011年第1刷発行です。
ムキムキの働きアリが大活躍しますが、初めて読んだとき「あれ、働きアリってメスではなかったかな?」と軽くツツコミたくなりました。しかし巻末に「エサを巣穴に運ぶ働きアリは、実際は全てメスです。しかしそれでは勇ましさや迫力が出しにくいので、別の世界のアリのお話、として全てオスの設定で作りました。——サトシン」ときちんと書いてありました。

図2



「よしおくんがぎゅうにゅうをこぼしてしまったおはなし」
及川賢治、竹内蘭子作・絵(岩崎書店)
2007年第1刷を持っています。作者が長男と同名同名なので、つい購入したのが始まりで、この他に「グリーンピースのいえ」というカエルが主人公の絵本や、「ねこのセーター」という寒がりな猫が主人公の絵本など、毎回まったく絵柄を変えています。及川賢治さんと竹内蘭子さんは1996年頃から「100%オレンジ」という名前でイラスト、絵本、漫画を書いているそうです。

図3



「ぼくのおふる」
鈴木のリたけ作・絵(PHP研究所)
鈴木のリたけさんの、「ぼくの」シリーズ第1作で、2010年初版発行です。子供に読み聞かせをするときに絵探しも楽しめます。第2作の「ぼくのトイレ」や「おしりをしりたい」も面白いです。

図4



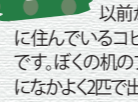
「ぼくのふとん」
鈴木のリたけ作・絵(PHP研究所)
2013年初版発行の鈴木のリたけさんの、「ぼくの」シリーズ第3作です。「ぼくの」シリーズは累計20万部を突破したそうで、シリーズ絵本としてはロングセラーの部類に入ります。

図5



「みんなのこびと」
なばたとしたか作・絵(ロクリン社)
2014年初版発行なので、流行したのは2014-2015年頃でしょうか?出現すると平和の兆しとなる「ホトケアカバネ」というコビトが僕は特に好きです。ホトケアカバネが大量発生して、戦争が終わり、早く世界が平和になるとよいですね。

図6



以前からぼくの自宅に住んでいるコビトの証拠写真です。ぼくの机のプリンターの前になかよく2匹で出現しました。

図7



「金太郎」
米内穂豊絵(講談社)
日本画を思わせる精緻な絵がとにかく素晴らしい絵本です。ちなみに僕の自宅には今も復刻版講談社の絵本シリーズは「桃太郎」、「かちかち山」、「さるかに合戦」、「金太郎」、「一休さん」、「曾我兄弟」、「宮本武蔵」、「鼠の嫁入り・分福茶釜」、「牛若丸」などがありますが、今回は子どもたちに読み聞かせをして一番人気だった「金太郎」を紹介させていただきました。次に人気だったのが「さるかに合戦」でした。

ふたり主治医制を推進しています

～厚生労働省は『紹介受診重点医療機関』制度を推進～

当院では、天使病院の他にもうひとりのかかりつけ医を持つこと（ふたり主治医制）を推進しています。ふたり主治医制とは、天使病院の医師と地域のかかりつけの医師、ふたりの医師が主治医となり互いに連携し、継続的に治療を行うことです。

ご希望やご相談は外来受診時などに外来スタッフまたは患者サポートセンターへお申し出ください。

かかりつけ

日常的な診療

- ・継続的な治療（持病や退院後の経過観察 など）
- ・体調不良の時の診療（頭痛、発熱、食欲不振 など）
- ・日頃の健康管理

夕方や土曜日に診療をしていることが多い

紹介

連携

逆紹介

専門的な診療

- ・精密検査や特殊な検査
- ・専門的な治療
- ・入院を要する治療
- ・救急医療

緊急時は夜間、休日の対応が可能

天使病院



詳しくはこちら

【お問い合わせ・ご相談】患者サポートセンターまで

糖尿病予防教室について

2022年5月よりオンライン（オンデマンド）方式の糖尿病予防教室を開催しています。

視聴期間は毎月1日から3ヶ月間です。（1日が土・日・祝日の場合は、前日または翌日に公開します）詳しくは天使病院のホームページをご覧ください。



▲ ホームページ

スケジュール（2023年11月～2024年1月）

月	タイトル	担当者
11月	糖尿病と脂肪肝	医師 吉田和博
	糖尿病の運動	理学療法士 右近香菜子
12月	3大合併症～糖尿病網膜症～	医師 曾根昭子
	～黄斑浮腫～	医師 鈴木智子
	～検査～	看護師
	バランスの良い食事～外食・惣菜・年末年始～	管理栄養士 岸本麻美
1月	糖尿病と認知症	医師 林下晶子
	低血糖について	薬剤師 小澤純



表紙の写真紹介

3回目の表紙はシジュウカラです。大きさは全長14cm、体重14g程度です。留鳥で都市部の公園でも1年中見られます。黒いネクタイの様な柄を持ち、オスのほうがその幅が太いです。首から背にかけて黄緑色もきれいです。テレビの森のシーンなどでツツピーと鳴いているのもよく聞きます。鳴き声といえば動物学者の鈴木俊貴氏により、シジュウカラには言語能力があり、天敵の種類を言い分け、文章すらも駆使していることを報告し、NHKでも取り上げられていました。その中でピーツピー・チヂチは警戒・集まれという言葉らしいです。これを聞いたらずにお邪魔しているのかもしれませんが。更に研究が進み、野生動物やペットと会話できるような日が来ると楽しいですね。



撮影者：西里仁男
(循環器内科主任科長/愛用機種：Panasonic LUMIX DC-G9)

広報誌 「天使びょういん」第70号
発行日 令和5年10月15日
発行人 院長 西村光弘
編集 「天使びょういん」編集委員会

編集後記

北海道にしては異例の暑い夏が終わったと思えば、途端に秋の風。本号（秋号）の表紙も、色鮮やかな紅葉から今にも飛び立とうとする姿を絶妙なタイミングでとらえた秋らしい1枚を選びました。こどもメディカルセンターのページで紹介したこども専用の撮影台の存在を私たちも初めて知りました。放射線科のスタッフの思いや取り組み、心遣いも改めて聞くことができ、プロ意識とやさしさを感じ、誇らしく思いました。

